



はちゅうるい館オープンしました

長らくお待たせいたしました。11月18日、はちゅうるい館がオープンしました。午前10時から小川市長のあいさつで式典が始まり、たくさんの来賓の方から祝福を受けたあと、午前11時に一般公開を始めました。



《オープン式典》

映画風に言えば「構想3年、完成まで5年の大作」ということにもなるのでしょうか。この「はちゅうるい館」は職員のアイデアから生まれたものです。当園は、開園50年の節目になる平成19年頃からリニューアルに取り組んできましたが、そうしたリニューアルが一段落した平成25年のある夜のこと。とある居酒屋で「次は60周年だな、これを記念して何か作っちゃおう」と飼育員たちに飲んだ勢いで言っちゃったのが運の尽き。少し経って飼育員や獣医などを集め、アイデアコンペを実施することにしました。すると出るわ出るわ、14件のアイデアが出されました。これをまた園内で3件に絞り、アイデアを出した飼育員ともども市長プレゼンを行いながら最終的に「はちゅうるい館」に決定したという次第です。



《このアイデアが・・・》



《こうなる》

動物園では、それまでもカメやヘビなどを飼育していましたが、きちんとした展示場はなく、またあちこちに分散されて飼育していました。また、全国の鶺鴒で使われるウミウは、日立市で許可をとって捕獲されていることから市の鳥に指定されていますが、その展示場は老朽化が進んでいました。このため爬虫類の種数を増やして集約し、あわせてウミウも展示する複合施設として提案されたのがこの「はちゅうい」館で、ウはウミウのウを意味しています。



《クチヒロカイマン》



《スッポンモドキ》

職員のアイデアから生まれた「はちゅうい館」ですが、ここでしか見られなかったりとても貴重な爬虫類を集めた施設ではありません。哺乳類や鳥類に対して爬虫類はどうしても好き嫌いの分かれる傾向があり、ヘビとのふれあいでは、見ただけで遠ざかってしまうお客様が結構いました。そうしたお客様に、少しでも爬虫類の魅力を知ってもらいたい、という気持ちがあり、ペットショップなどでも入手できそうな一般的な動物を取りそろえた次第です。マニアの方には物足りないコレクションだと思いますが、爬虫類の基礎講座みたいな感覚で楽しんでいただけたらと思います。また飼育する側も、基礎講座で学んでいながら、将来的には希少種など保全に貢献できるような動物も扱っていければと思うところです。



《エボシカメレオン》



《カメレオンモリドラゴン》

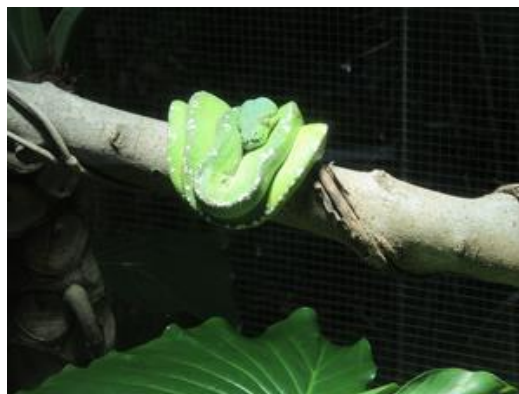
これまで爬虫類を敬遠していたお客様にはたくさん来ていただき、また、爬虫類好きなお客様にはほかのかみねの動物も見てもらえるきっかけになるような、そんな「はちゅうるい館」を目指していきますので今後ともよろしく願いいたします。

最後に見どころを。展示動物は一覧表をつけましたので併せてご覧ください。

- ・爬虫類を構成するヘビ・トカゲ・ワニ・カメ類約40種90点を展示することで、爬虫類の基本や全体像が理解できる展示構成
 - ・併せて、爬虫類の一部から進化した鳥類も展示
 - ・生息地域が違って環境によって似たような形態となる比較展示



《エメラルドツリーボア》



《ミドリニシキヘビ》

- ・ミニ南米ゾーンでは、イグアナやカメ、サルなどの混合展示に挑戦



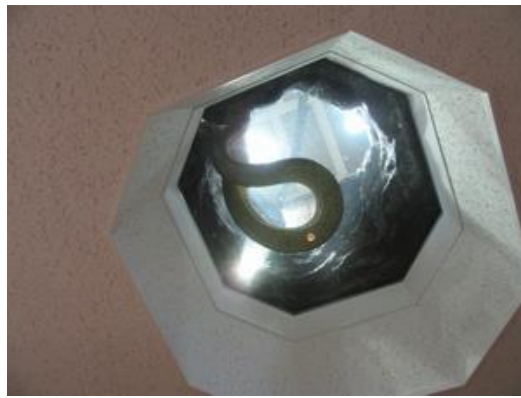
《三種混合展示》

- ・世界で2番目に大きな種類のリクガメ、アルダブラゾウガメを展示



《アルダブラゾウガメ》

- ・観覧ドームや見上げるヘビコーナー



《見上げると、ビルマニシキヘビ》

- ・アシのないヘビのようなトカゲ



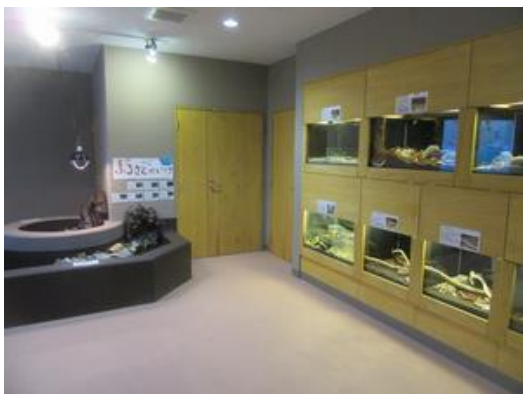
《ヨーロッパアシナシトカゲ》

- ・ウミウが水中に潜ってエサをとる姿が観察できる(エサやりタイムのみ)。



《ウミウのダイブ》

- ・日本の爬虫類・ふるさとのいけコーナーやオープンラボ併設。



《日本産爬虫類・ふるさとのいけ&オープンラボ》

- ・中央部の1、2階吹き抜け空間には熱帯らしい植物を配置



《吹抜けの展示場には植物が》

《謝辞》

はちゅうるい館整備事業にあたっては次の動物園水族館様をはじめ、その他園館関係者様、設計・施工者様に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

熱川バナナワニ園様(ワニの寄贈)、平川動物公園様(アルダブラゾウガメの貸与)、円山動物園様・野毛山動物園様・日本平動物園様(以上設計協力)、なかがわ水遊園様(テストフィッシュ譲受)、日本動物園水族館両生類爬虫類会議の皆様(心の支え)

2018年11月19日

アフリカ行ってきました(6)

どこまでも続く地平線に頭上をギラギラと照り付ける太陽。そして草原の中の草食動物に時おり現れる肉食動物。あるものはそれだけ。それがここセレンゲティのサバンナです。風を受けながら疾走する車の中でそんな日常とかけ離れた空間を感じていると、突然車が止まり現実の世界へ。「トイレ休憩だ」とニッキー。確かにシャンパンを飲んで3時間以上もたっているのです。そろそろ限界の人もいるかもしれません(かくいう私も)。でも、トイレはどこにもない。どこでやるのか不審がっていると、「男は地平線に向かって、女はピコの岩陰で手短かに」とのこと。これには女性陣一同「エーッ!!」。この広大なセレンゲティ国立公園、自然のままの状態を保つため、ごく限られた場所しか人工物は造れないようです。男たちはワケないのですが、やはり女性の方は気が引けるでしょう、しかもさっきのようにピコの上にはライオンがいましたからねえ……。一応、ニッキーとロジャーが見て回り、「大丈夫」とのお墨付きをもらおうと、観念したご婦人方はピコの裏手へと消えていきました。それにしてもこんな開放的な立ち〇は初めてです。気持ちいいなあ!



《男たち・オレたちはいいんだけどなあ》

トイレ休憩の後、車の中でお弁当を食べ再度出発。午後からは、ピコのような岩場もなく、草原だけの中をひた走ります。行けども行けども草・草・草。何も無い草原を走っているうちに何だか広い海原を船で航行しているような気分になってきました。それでもシマウマの巨大な群れに遭遇するとやはり紛れもないアフリカの大地。シマウマの群れはンゴロンゴロよりはるかに大きく無数と言ってもいいぐらいに。いや数える気、ないんですけどね。シマウマたちはのんびり草を食んでるかと思うと、いきなり数頭が走り出したり、珍しく現れる水場でたたずんでいたたり、時折ヌーの群れが入り混じったり、群れからはぐれた孤独なシマウマをライオンがジッと様子を窺っていたりと、草原の中に動物が介在することでサバンナは様々な表情を見せてくれます。



《おびたしいシマウマやヌーたち・・・画像をクリックしてアップで見てください》



《獲物はたくさん》

まったくどこをどう走っているのかわかりませんが、気がつけば何となくロッジの方向に車を進めている感じに。するとセレンゲティでは初めて見るキリンの群れに遭遇。マサイキリンです。昨日、移動途中で沿道のキリンを見かけましたが公園内では初めて見るキリン。キリンはご存知のように高木のアカシアの木の葉っぱを長い舌で絡めとって食べる光景が一般的です。なぜキリンの首は長いのか、というダーウィンの進化論でも登場するおなじみの光景ですがここキリンたちは何故かみな下の草を食べているのです。それはこれまでのシマウマやヌーなどが草を食んでると何ら変わらない風景です。そういえば、高い木があま

り見当たりません。サバンナも乾燥化が進み高い木が少なくなっている、という話を聞いたことがあります。そうなのでしょう。ちょっとじっくりこないキリンの群れを観察しながら車は進みます。途中、セレンゲティを発つことになる飛行場に立ち寄り。サバンナの中に突如現れる飛行場は、学校のグラウンドのような土の滑走路があるだけのシンプルなもの。ここをセスナで飛ばすようです。大丈夫か。



《下草を食むマサイキリン》

いよいよ明日は最終日。長いようで短かったゲームドライブの疲れを癒そうと、今日は早めにロッジへ引き上げることに。思えば、これまでのロッジ到着は陽も沈み真っ暗な中を帰ってきてましたが、今日はまだ5時台で明るいうちに到着。ロッジにはプールもあるのでメンバーの一人は早速水着に着替えてスイスイ。私はプールまわりに出てくるトカゲたちを撮影したり、遠くに現れるゾウの群れを観察したり、久々にゆっくりと自分の時間を過ごしました。そしてツアー最後となるディナーはメンバーたちと旅の話に花が咲き、にぎやかに夜が更けていったのでした。



《ゴージャスなひととき》



《プールサイドにわらわらと現る》



《遠くにはゾウの群れが》

2018年11月6日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

平成30年

[平成30年12月](#)

[平成30年11月](#)

[平成30年10月](#)

[平成30年9月](#)

[平成30年8月](#)

[平成30年7月](#)